

■**河口慧海** 僧, チベット仏教学開拓者。日本人初のラサ入り, 「**西藏旅行記**」が大ヒット, 両ラマから大蔵經入手。

かわぐちえかい

薩長同盟・・・1866＝ 大阪府堺市で, 桶樽製造業(樽善)河口善吉の長男に生まれる。名は定治郎。

**明治維新**・・・1868＝ 2歳:

廃藩置県・・・1871＝ 5歳: 寺子屋に学ぶ。  
学問のすすめ1872＝ 6歳: 錦西小学校に入学。

**明治6年政変** 1873＝ 7歳:

初の民間工場1875＝ **9歳**:

**西南戦争**・・・1877＝11歳: 学問はいらないと父により中退させられ, 家業に従事。

琉球処分・・・1879＝13歳: 諦めきれず, 夜学校の私塾で習字・数学・漢学を学ぶ。  
・・・1880＝14歳: 漢学を学ぶため晩晴塾に入門。\_「**釈迦一代記**」を読んで感銘, 発心し, **禁酒・禁肉食・不淫を誓う**。  
**明治14年政変**1881＝15歳:

この間, 正徳寺の佐伯蓬山に師事していたが,  
岩倉具視没・1883＝17歳: 徴兵令が改正され, 一家の長男まで兵役にとられるようになったことに反対, 天皇に直訴しようと,  
秩父事件・・・1884＝**18歳**: 上京するが, 蓬山の紹介で寄寓した深川海福寺住職に発見されて, 呼戻され, 蓬山のもとで参禅。  
内閣発足・・・1885＝19歳: 堺でコルベール女史に英語とキリスト教を学ぶ。  
帝国大学始・・・1886＝20歳: 小学校の代用教員になるが, ここでも正義感を發揮し, 別の小学校校長の不正を糾弾するべく, 大演説会を開くと, どの会場も大入り満員となって, 結局, その校長は左遷される。  
初の対等条約1888＝22歳: **上京し, 黄檗宗五百羅漢寺に寄宿して, 前年開校したばかりの哲学館に入る。**  
**帝国憲法発布**1889＝23歳:

帝国議会始・・・1890＝24歳: 五百羅漢寺の団扇屋で内職しながら苦学, やがて雑誌への寄稿で収入も得るようになり,  
**得度し, 慧海の号を授かるとともに, 師の突然の引退で, 五百羅漢寺の住職となるが, 俗務の多さに嫌気すると, 雑誌(明教新誌)に黄檗宗を痛烈に批判する論文を投稿して, 返上。**

**哲学館を卒業し,**  
大本教・・・1892＝26歳: **宇治の黄檗山で一切蔵經の読破に専念するうち,**  
郡司千島探検1893＝**27歳**: **\*漢文訳では伝わらない原典の真の教えを求め, 同時に, ヒマラヤで修行しようと, チベット入りを決意。**

**日清戦争始**・・・1894＝28歳:  
**日清戦争終**・・・1895＝29歳: **神奈川三會寺の釈偶然についてパーリ語とインド事情を学習(鈴木大拙と同門)。「黄檗宗徒に檄文す」を発表して, 排斥される。**

八幡製鉄始・・・1897＝31歳: **三會寺を辞し, チベット行きを発表。友人たちの資金的援助を受けて, インドに渡り, ダージリンのサラット・チャンドラ・ダスを訪問し, この地でチベット語を学んだ後,**

Bushidou・・・1899＝33歳: この年, 父が死去。\_ネパールに入り, チベット仏教と修辞学を学ぶ。  
ピアノ国産化・・・1900＝34歳: **2頭の羊とともに, 死を背中にするような厳しいヒマラヤ超えをして, 西チベットのマナサロワール湖に達し, 仏教・ヒンズー教の聖山たるカイラスを見た最初の日本人なり, その後, 東行して,**

田中正造直訴1901＝35歳: **\*日本人として初めてラサに至る。ダライ・ラマ13世に謁見。セラ寺のガリ・ビトゥブ僧房にとどまり, “セラの医者”として, もっぱら医療の成功で人気を得るが,**

教科書疑獄・・・1902＝**36歳**: **日本人であることが露見し, 入手した經典は密かに日本に送って, ダージリンに脱出。ラサで助けてくれた人々が投獄されているのを知り, 救済に奔走。**

日比谷公園・・・1903＝37歳: **ネパールで梵語仏典を集めて帰国。新聞各紙で話題になり, 冒険行を口述筆記した連載が大反響,**  
**日露戦争始**・・・1904＝38歳: **「西藏旅行記」として刊行し, 莫大の収入で借金をすべて返済, さらに余剰が出た。一方, 有力な論者たちからは中傷, 誹謗を受ける。「生死自在」。再び日本を出, カルカッタを経て,**

**日露戦争終**・・・1905＝39歳: **ネパールに行き, 以後, 外国人のチベット入りを厳しく警戒するイギリスの目を見ながら,**  
満鉄発足・・・1906＝40歳: **インド訪問中のパンチェン・ラマと接触して, ナルタン版大蔵經写本を貰う約束をし,**

**伊藤博文暗殺**1909＝43歳: **この間, 梵語の研究に励み, インド歌劇「シャクンタラー」の翻訳などもする。**  
**「西藏旅行記」を自ら英訳するが, イギリスのラサ使節団報告書が出るを聞いて, 出版を断念したところ, 神智学協会会長のアニー＝ベザンド夫人から勧められ, 「Three Years in Tibet」をマドラスで出版。**

大逆事件判決1911＝**45歳**: 英文の日本仏教草稿7冊をつくる。  
さらに, 梵語研究を続けるとともに, 各地の寺院を回って梵語仏典の蒐集につとめ,

**明治天皇没**・・・1912＝46歳:  
大正政変・・・1913＝47歳: **ダージリンに移り,**  
**第一次大戦始**1914＝48歳: **8年目によくやく, チベット入り, シガツェで, ナルタン版大蔵經写本を受取り, ラサに至って, ダライ・ラマ13世に謁見。ギャンツェ版大蔵經写本を下賜され,**

21ヶ条要求・・・1915＝49歳: **多田・矢島・青木と新年会をしたらしい。\*両大ラマから受けとった大蔵經写本を携えて帰国。宗教大学に寄贈。各地での講演や各紙誌へ論文の発表を行うとともに, 東洋大学などで講義し, 少年会を催して講話。さらにチベットとその仏教の研究紹介にあたる。**

**ロシア革命**・・・1917＝51歳: **中外日報のうちに“大正の玉手箱事件”と呼ばれる, チベット大蔵經の帰属をめぐる青木との対決が報じられ, 周囲をも巻き込んだ泥仕合の様相を帯びて行くが,**

本格政党内閣1918＝52歳: **大谷光瑞の命で, 青木が東南アジアに派遣され, 終息する。[雪山会]を{佛教宣揚会}と改め, 布教。**  
大暴落・・・1920＝**54歳**:

**原敬首相暗殺**1921＝55歳: この年, 母が死去。「佛教和贊」「入菩薩行」。\_僧籍を脱し, 純粹仏教を宣揚する。  
水平社結成・・・1922＝56歳: 「西藏伝印度佛教歴史・上」「佛教に現れたる長生不老法」。「佛教日課」発刊。

護憲三派圧勝1924＝58歳: 「梵蔵伝訳法華経」「印度歌劇シャクンタラー姫」「漢蔵対訳勝鬘経」,  
治安維持法・・・1925＝59歳: **北京を訪問して, パンチェン・ラマに謁見, デルゲ版蔵經入手を懇請して快諾される。**  
円本時代始・・・1926＝60歳: 「在家佛教」, **還曆を機に, 還俗を宣言。**

金融恐慌・・・1927＝61歳: {佛教宣揚会}を解散して{在家佛教修行団}設立。「漢蔵対訳大日経住心品」,  
共産党事件・・・1928＝62歳: 「漢蔵対訳国訳維摩経」,  
**世界恐慌**・・・1929＝**63歳**: 「釈迦一代記」, **中国亡命中のパンチェン・ラマを訪ねる。**

**満州事変**・・・1931＝65歳: 「ヒマラヤ山の光」,  
国際連盟脱退1933＝67歳: **北京へ行き, 再びパンチェン・ラマを訪ねる。**  
帝人疑獄事件1934＝68歳: 「蔵文和訳大日経」,  
芥川直木賞始1935＝69歳: **「蔵和辞典」編纂計画を発表,**

二二六事件・・・1936＝70歳: 「正真佛教」「西藏文典」などを著し,  
**日中戦争始**・・・1937＝71歳: 「西藏語読本第一」,  
健保+総動員 1938＝**72歳**:  
第二次大戦始1939＝73歳: 「西藏文化と我国との関係」,  
大政翼賛会・・・1940＝74歳: **チベット語梵語經書類を東洋文庫に寄贈するなど, 美術品も含めて収集品一切を公共機関に寄付,**

**日米開戦**・・・1941＝75歳:  
**敗戦**・・・1945＝79歳: **\*「蔵和辞典」編纂を果たせず, 脳溢血のため, 没した。**

産経「日本人の足跡1」, 高山龍三「河口慧海」, 江本嘉伸「西藏漂泊・チベットに魅せられた十人の日本人」, 「没年日本史人物事典」, 平凡社百科事典, 山田風太郎「人間臨終図巻」, 「目でみる日本人物百科」,